

# 本日の講義内容

1. 2024年度診療報酬改定の概略
2. 2024年度診療報酬改定（診療所関係）
  - ① 全体項目
  - ② 個別項目
3. 介護報酬改定 —医療機関との関係、連携を中心に—
4. 障害福祉サービス等報酬改定 —医療機関との関係、連携を中心に—
5. 診療報酬改定・介護報酬改定から見据える医療機関戦略
6. まとめ

# 今後の医療機関経営における重要なトピックス

---

- 機能分化のその先へ
  - 高度医療機関はますます集約化、中小は専門や地域へ –
- 医療DXから医療機関DXへ
- 働き方改革からウェルビーイングな経営へ
- 治療中心から患者さんのQOLや健康向上も視野に
  - 食事・栄養、リハビリ・運動、メンタルヘルス –
- 施設で待つ医療（外来、入院）から、地域へ出る在宅や地域活動へ

# 最後に

1. 2024年度はコロナ禍が明けてコロナ前に戻るものと、コロナ禍を経て新しく仕組みが変わるもののが、せめぎあいながら新しい時代を作っていくタイミングとなっています。
2. 医療機関にとっては、コロナ禍以前からの課題である少子高齢化や疾病構造の変化、医療費財源の不足、働き手不足、それらを解決するためのDXなど、多様な課題が目の前に横たわっており、積極的な対応が求められます。
3. また2024年度は、診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬の一体改定ともなっており、これまでの病院機能分化促進や各病棟・在宅機能強化とあわせて外来の特定疾患療養管理料に踏み込みつつ、賃上げ、医療DX、働き方改革や医療と介護、医療と障害福祉の連携強化が強く示されるなど、あらゆる点において施策を実施する改定となりました。
4. 外来型診療所については、生活習慣病管理において計画や患者説明等の丁寧な対応が求められ、また認知症対応や少しずつでも往診を始めることが求められ、在宅型診療所では、より重症な患者をしっかりと診て、軽症患者への対応を適切に調整することが求められています。
5. こうした制度改正の流れにおいて、各医療機関が生き残り、社会のインフラとしてありつづけるためには、細かい点数の採算を気にし過ぎることなく診療報酬改定の背景にある意図やビジョンを読み取り、日本全体や医療を取り巻く環境変化や地域の実情にあわせて、個別に戦略を考える必要があります。